

平成19年度 グループ対抗 里山デジタルカメラ選手権

身近な森林の再発見 入選作品集



最終審査風景



林野庁長官賞一部



審査員総評

主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

共催 (株)ニコン、エプソン販売(株)

後援 (社)国土緑化推進機構、琵琶湖ホテル、富士フィルムイメージング(株)、

(財)林野弘済会大阪支部

NHK大阪放送局、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、

美しい里山づくり協議会

日本経済新聞社、産経新聞社、京都新聞社、大阪日日新聞

近畿中国森林管理局は、東の石川県から西の山口県まで2府12県の国有林野を管理経営する林野庁の出先機関です。管内の国有林野面積は、森林面積全体の約6%にすぎませんが、身近な里山も多く、その整備・保全是重要な課題となっています。

このため、当局では、平成16年4月設置された箕面森林環境保全ふれあいセンターの取組として、里山の保全・再生に積極的に取り組まれている写真家の今森光彦氏に御協力を頂き、里山を対象としたフォトコンテストを実施してきました。

今回は、これまでの取組を踏まえ、単なる写真コンテストにとどまるのではなく、里山の再生・整備活動の促進やそれを通じた森林環境教育の推進に主眼を置くこととし、「グループ対抗里山デジカメ選手権」として、学校、森林ボランティア、企業、家族などがグループにより共同して作り上げた作品を募集することとしました。

このため、作品の募集に当たっては、テーマを「身近な森林の再発見」とし、3枚の写真1組を1作品として、里山に代表される身近な森林の中に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育活動などの一瞬を切り撮ったもので、単に映像の美しさにとどまらず作品に込められたメッセージ性も重要視しました。

ここに掲載する9点の作品は、11月3日の滋賀県大津市で開催した公開審査において、写真家の今森光彦氏、フリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員に迎え、一次審査を通過した30グループの応募作品の中から選ばれたものであり、最優秀賞（林野庁長官賞）1点、優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）8点となっています。

平成20年3月

募集期間	平成19年7月1日	審査員	(写真家)
	↓		今森光彦氏
	平成19年10月16日		(フリーアナウンサー)
応募作品	57組		青山佳世氏
	入選：最優秀賞 1組		(近畿中国森林管理局長)
	優秀賞 8組		日尾野 興一

平成19年度グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品一覧

◎最優秀賞(林野庁長官賞)

- ◆「小さな命」 広島県立庄原格致高等学校(広島県庄原市)
池上友理 羽村矩美子 寺岡沙織

◎優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)

【学校関係部門】

- ◆「小さな自然」 暮らしの学校いだらぼっちNature(長野県泰阜村)
藤森洸詠 松木研 里見熙甫
- ◆「鞍馬のかわいい花や生き物」鞍馬自然環境守ルンジャー(京都府京都市)
山本知沙 三浦彩葉 西村紗奈

【一般部門】

- ◆「ボクたちの宝探し」 わんぱく隊(和歌山県田辺市)
赤木利衣 赤木航輔 赤木涼介
- ◆「森の巨人」 親子三世代(和歌山県田辺市)
伊藤千津子 木村裕子 木村知美
- ◆「森に思う 共生(あそぶ)共生(のぼる)共生(もり)」
やまさき老人大学カメラクラブ(兵庫県宍粟市)
春名俊夫、千本忠治、山国豊

【森林ボランティア部門】

- ◆「カワウの棲みつかない森づくり(地拵え)」
NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ(滋賀県大津市)
磯部彰 磯部春美 井上宣美
- ◆「親父・再生」 NPO法人グリーンウッドチーム(長野県泰阜村)
片山健太 佐藤陽平 斉藤新
- ◆「作業風景」 京都森林作業体験セミナー(京都府京都市)
松本茂 新井明裕 水口征親
(左からタイトル名、グループ名、下段に氏名を記載)

総 評



◎ 今森光彦氏（写真家）

本日、皆さんの写真について説明をお聞きして、写真を通して皆さんの森に対する想いや生き物に対する愛情がすごく伝わり、すごくいいなと思いました。でも写真だけではなく、メッセージ性があるかどうかも重要な審査の要素となっていて、それが写真の背後にあるということを考えると、とてもおもしろく、すごく魅力的なコンテストという気がします。

また、ご年輩の方、企業の方、NPOの方から小学校の低学年の子どもたちまで全てが平等に扱われるという、個性的で珍しいコンテストですし、説明を聞けば中身を見ているような気持ちで嬉しくなります。

林野庁長官賞をとられた作品ですが、審査員三人とも高得点により決定をいたしました。この写真が優れていたのは、表現力という写真の特質をうまく引き出しているところです。もちろん、本日説明していただいた全員の皆さんが、森への愛情があり、そのレベルにおいては全然変わりませんし、それはメッセージの言葉からひしひしと伝わってきますが、写真というのは、言葉にならない表現力というのを持っています。それをうまく引き出しているところがあるかが着眼点です。

また、三枚の組写真というのがミソで、これも表現が難しいことですが、それぞれがお互いのメッセージを与えて、三枚全てを見たときにきちんとしたメッセージが放たれているかどうかということです。林野庁長官賞に選ばれた作品は、特に愛情や森に関わっている喜びといったことが、よく映像として出ています。また、メッセージで説明された言葉以上になっていると思います。



◎ 青山佳世氏（フリーアナウンサー）

私もいろいろなフォトコンテストの審査にかかわることがありますが、大抵は撮った写真を見るだけで、撮影者の顔が見えないことから、客観的に写真を撮った想いを判断して、良否を審査してきました。

ところが、今回の里山デジカメ選手権では、本当に撮った方のお顔が見えて、しかもその方が森に対してどんな想いでいらっしゃるのか、どんな想いで活動していらっしゃるのかというのを見てしまったものですから、思わず情が移ってしまいまして、採点をするのにも迷ってしまいました。

今回はそういった想いや活動、それからプレゼンテーションの仕方と合わせて、写真の選手権でありますので、中には記録的な写真の撮り方もありましたが、写真としての作品がどれだけ素敵なのかという視点で点数をつけることにしました。

しかし、私としては、大人の方から子どもの方まで全ての方たちが、それぞれの立場で森のことを一生懸命感じながら、その自然の恵みをいっぱいを受けながら写真を撮ったということで、とても素敵だなと思いました。

このような皆さんの活動を知ることができて、この選手権は私にとっても、とても勉強になった瞬間だと思いました。これからも森を愛して活動を続け、写真を撮ってください。

◎ 最優秀賞



「小さな命」

広島県立庄原格致高等学校（広島県庄原市）

池上 友理

羽村 矩美子

寺岡 沙織

〈メッセージ〉

私たちは緑豊かな山々に囲まれて暮らしています。身近な森に入ると普段では見られないような風景に会うことがあります。

可憐に咲く野の花、沢山の虫の声、これらは自然のなくなりつつある都会では見る事が出来ないものであり、そう思うと同時に、身近な森林にも、こんなに沢山の生き物がいたのかと驚きました。

最近地球規模での問題の一つに、環境問題があります。一口に環境問題といってもその内訳は、大気汚染や水質汚染、環境破壊とさまざまに分かれています。そしてそのすべてが人間によって作り出されたものであり、自然に発生したものではありません。

そしてその問題を解決できるのも人間です。人間が作り出した問題だからこそ人間が解決しなければならないのです。

そう思いながら写真を撮っていると、小川を流れるきれいな水、澄んだ空気、沢山の生き物を育ててきた土壌、これらすべての源は森林だと言うことに気づきました。そしてそれらを守るのはこれからの未来を担っていく私達です。

この撮影を通して、森林を今まで以上に身近に感じ、その大切さをもっと多くの人に知って貰えればと思います。
(H19. 7. 24)

撮影場所：北海道東川町

3枚の組写真の良さがすごく出ていると思います。それぞれ表現力の違う写真で構成されているため、3枚揃って森の豊かさが感じられるすごい写真です。写真の表現力がすぐれています。（今森光彦氏）

◎ 優 秀 賞【学校関係部門】



「小さな自然」
暮らしの学校いだらぼっち Nature
(長野県泰阜村)

藤 森 洸 詠
松 木 研
里 見 熙 甫

〈メッセージ〉

ぼくたちがこの写真で伝えたい事は、いつもみんなの目に入らない所にある自然です。このことを伝えようと僕たち3人は道角に咲いている花や村の風景などを捜して歩きまわりました。そこでぼくたちは村の小さな再発見を見つけました。ぼくたちのくらすこ泰阜村にはこのような風景がたくさんあります。でもぼくたちはこうしてあえて人目のつかない所にある自然を撮りました。

3人の写真の好きな思いがわかってくれたらうれしいです。これからもこんな写真を撮っていきたいです。

(H19. 9. 30)

撮影場所：長野県泰阜村

風景を撮るときにワイドレンズを使ったり、花のアップを撮るときマクロレンズを使ったり、手前に花を入れて、向こうに人が遊んでいる背景を入れたり、写真の持っている特質を出しているため、3枚揃うと力強い作品となっています。

(今森光彦氏)

◎ 優 秀 賞【学校関係部門】

「鞍馬のかわいい花や生き物」
鞍馬自然環境守ルンジャー（京都府京都市）

山 本 知 沙
三 浦 彩 葉
西 村 紗 奈



〈メッセージ〉

鞍馬川でキセキレイが横を向いているときに上手に写真がとれたなと思いました。かわいいです。家の近くでもキセキレイをよく見かけます。



〈メッセージ〉

たんぽぽの花が、かわいいから気に入りました

(H18. 12~H19. 5)

撮影場所：京都市鞍馬小学校周辺

マクロの視点だけで3枚が揃っており、それぞれ異なる、ミミズから植物まで捉えており、自分がたんぽの土手で生き物と出会ったときの喜びが伝わってくる作品です

(今森光彦氏)



〈メッセージ〉

はじめてミミズをさわりました。にゆるにゆるでかわいかったです。こんなもようのミミズを見られてすごくうれしかったです。鞍馬にこんなミミズがいてうれしいです。

◎ 優 秀 賞【一般部門】



「ボクたちの宝探し」
わんぱく隊（和歌山県田辺市）

赤 木 利 衣
赤 木 航 輔
赤 木 涼 介



<メッセージ>

目を輝かせて、ボクたちの宝探しが始まりました。どんな小さな虫だって、とっても怖〜いへびだってボクたちには宝物なんだ。

こんな森林（もり）がたくさん増えますよに！！
ボクたちの秘密基地を守ってください。ボクたちからのお願いです。

(H19. 9. 9)

撮影場所：和歌山県田辺市



それぞれの生き物をクローズアップで捉えており、技術は今一歩であるが、森の豊かさが感じられる写真です。

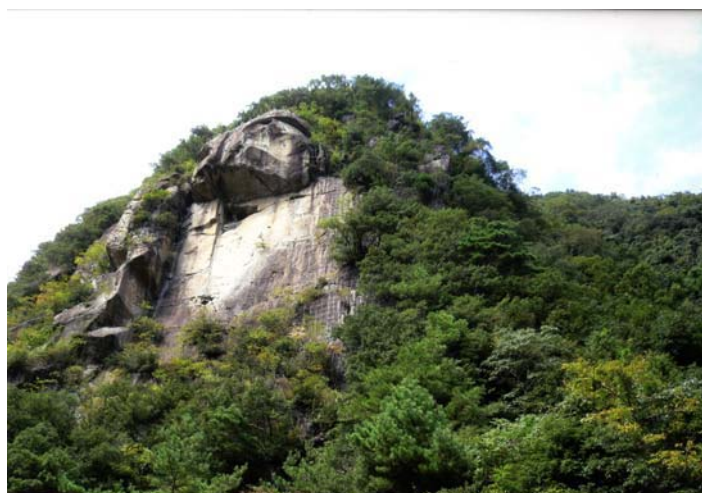
(今森光彦氏)

◎ 優秀賞【一般部門】

「森の巨人」
親子三世代（和歌山県田辺市）
伊藤千津子
木村裕子
木村知美



山を望むとそこには「眠れる森の乙女」がありました



大きな岩肌には、巨人が立っています。



鎮守の森には、巨人達が話をしています。

変化のある写真です。風景写真や木立をワイドレンズで撮るなど工夫が分かる写真で、特に3本の大木を下から見上げた感じの写真は良く撮れていると思います。

（今森光彦氏）

撮影場所：和歌山県田辺市・上秋津

◎ 優 秀 賞【一般部門】



「森に思う

共生(あそぶ) 共生(のぼる) 共生(もり)」

やまさき老人大学カメラクラブ (兵庫県穴栗市)

春 名 俊 夫

千 本 忠 治

山 国 豊

〈メッセージ〉

森の働きは、植物本来の働き、二酸化炭素を吸収して、酸素を供給することを基本に、自然環境の保全、安定した生態系の形成、暴風、防潮、防砂、防音、水質の浄化、水資源の保全、森林生産物の生産など、私たちの気づかない働きがたくさんあります。

森林のもつ多様な機能を発揮させながら、生産性を高めて行かなければならないというむずかしい問題をもっています。

生物の生態系をくずさず、人間はもとより、あらゆる生物が相互関係を維持しながら、快適な生活環境をつくり、それぞれの地域活性化を図っていききたいものです。

森や林は、機械などと違い長い歳月を必要とします。50年100年と月日が流れてこそ美しい景観や環境が造られる、人間から見て、又、地球環境から見ますと、50年100年の木より、年の浅い若木が良いのかもしれませんが、老木有り、若木有り、の調和のとれた森が景観も良くなって来るのでしょうか。戦前に植樹したスギ・ヒノキが戦後の復興により、山は裸になり災害が多く出ました。戦後、針葉樹の植林が進み、山は緑を取り戻しましたが、材木需要の変化により、今度は老木化が進み、又、災害が出始めてきました。広葉樹と針葉樹の調和のとれた、美しい山ができ、国産材で快適な家が建ち美しい日本の到来があることを念じます。目の前だけを考えず息長く見つめ育んで行きたい。自然災害の起きない、健全な森をみんなで造ろう。さらに麓では、子供から老人までが楽しめる里山の実現を皆さんで推進しましょう。

(H17~H19夏)

撮影場所：兵庫県穴栗市

3枚の写真をそれぞれアングルをかえてねらって撮っているので、すごく森の楽しさが伝わってくる写真です。子どもが森の中で遊んでいる表情が良く撮れており、楽しさが伝わってきます。

(今森光彦氏)

◎ 優 秀 賞【ボランティア部門】



写真としてちゃんと捉えており、状況がよく分かります。背後にある風景もしっかり写り込んでおり、面白いと思います。作業をしている一瞬の動きを捉えており、シャッターチャンスも良いと思います。

(今森光彦氏)

「カワウの棲みつかない森づくり(地拵え)」
NPO 法人ヒマヤン・グリーン・クラブ* (滋賀県大津市)

磯 部 彰

磯 部 春 美

井 上 宣 美

〈メッセージ〉

近江八幡市沖島町伊崎半島国有林は、竹生島に次ぐカワウの営巣地で今、琵琶湖で大きな問題となっているカワウの糞害で枯死し丸坊主になった山を、きれいな花が咲き市民が憩える森に再生するために立ち上がりました。

カワウの棲みつかない森づくり (地拵え) ①

この日は、放置された枝条(しじょう)や灌木、下草を片づける「地拵え作業」を班別に筋を作りながら進め、大枝などは小枝を落として「筋置き」にする作業を、近江八幡市民の方々、森林ボランティアの方々等で実施しました。

この1コマは、ベテラン森林ボランティアの方々が「巻き落とし」という技法で、力強く、息の合った写真です。
(H18. 11. 4)

カワウの棲みつかない森づくり (地拵え) ②

この1コマは、2回の地拵え作業を終えた満足感のある写真です。
(H18. 12. 2)

カワウの棲みつかない森づくり (地拵え) ③

この日は、3月の植樹に向けての「地均し作業」で、アカメガシワ、ヤマゴボウなど細かい切り株を取り除き、水など養分が溜まりやすいように植栽する箇所をヤマザクラは 5m間隔、コナラ・モミジ・ツバキなどは 2m間隔の「筋切り」にしておく作業を近江八幡市民の方々、森林ボランティアの方々等で実施しました。この1コマは、遠くは雪を被った比良山系、近くは琵琶湖で一番大きな島「沖島」を望むこの地の景観の良さと、力強く息のあった作業を続ける森林ボランティアの方々です。

(H19. 1. 20)

撮影場所：滋賀県近江八幡市伊崎国有林

◎ 優秀賞【ボランティア部門】



〈メッセージ〉

普段都会の生活、ストレス社会にどっぷりと浸かっているお父さんたち。そんなお父さんたちの癒しの場は、都会ではなく里山にこそあった！ストーブや風呂といった暮らしを支える薪を確保する作業を2泊3日で行う「薪作業合宿」では、たくさんの人間が関わり合う場があります。今回の写真はその作業合宿の様子を、普段森とは縁遠いお父さんたちの癒しの視点をテーマに撮影することで里山の魅力を再発見しました。

(H19.5)

撮影場所：長野県泰阜村

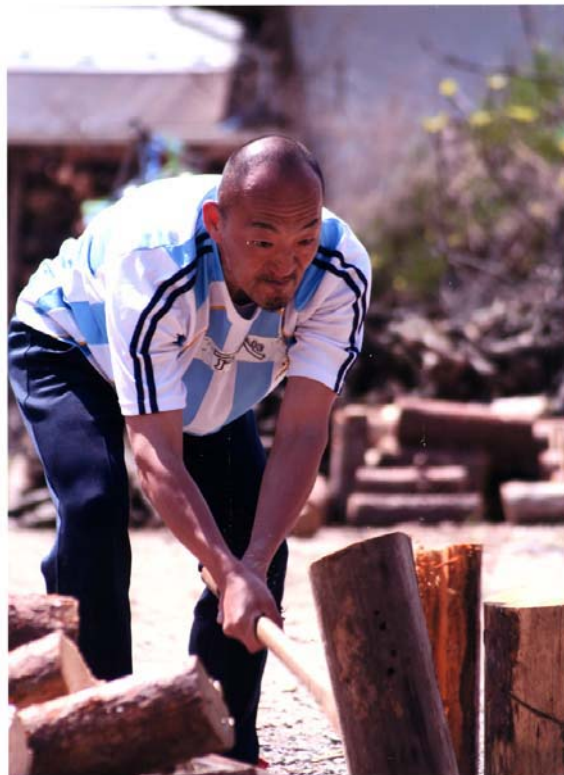
里山にかかわっていることの喜びが伝わってくる写真です。

人の表情の一瞬も捉えられており、風景も綺麗に撮れています。

(今森光彦氏)

「親父・再生」
NPO 法人グリーンウッドチーム（長野県泰阜村）

片岡健太
佐藤陽平
斉藤新



◎ 優 秀 賞【ボランティア部門】



①防鹿柵

植栽したヒノキの苗木を鹿の食害から守るため、伐採で発生した幹、枝を骨組みし、ネットを張る。効果があり、現在大きく成長している。

(H17. 5. 14)



②講義

フィールドに会員が自分たちで間伐した材木で建設した、小屋とデッキ。本セミナーは、当日行う作業の説明、注意事項だけでなく、30分以上をかけて、橋詰代表がその作業に関して講義をする。

(H18. 4. 23)

「作業風景」

京都森林作業体験セミナー（京都府京都市）

松 本 茂

新 井 明 裕

水 口 征 親



③植林

放置薪炭林を伐採、地拵えをし、ヒノキの苗木の植林。ヒノキやスギは心土で植栽しなければいけない。まず、法面にある落ち葉を取り除き、腐植のある土を除き、それらが混ざらないように注意して植栽する。

プロの技術を確実に教わる。

(H19. 5. 12)

撮影場所：京都市左京区鞍馬二ノ瀬

3枚の組写真というものを上手く使っているまとまりのある作品です。

環境、仕事の状況をちゃんと捉えた写真です。

特に、ヒノキ林でミーティングしている様子が良く撮れており、状況がよく分かります。

(今森光彦氏)

平成20年(2008年)3月発行

平成19年度「グループ対抗 里山デジカメ選手権」入選作品集

編集・発行 箕面森林環境保全ふれあいセンター(林野庁 近畿中国森林管理局)

〒602-8054

京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風呂町 102

京都農林水産総合庁舎 内

TEL : 075-414-9049

FAX : 075-414-9029

ホームページ <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>